新政会
渡邊　龍之
議員

健康づくりとスポーツの結び付きについて

質問　健康意識の高まりに合わせて、健康づくりに疾病等の予防を取り入れたプログラムを導入するべきではないか。

答弁　健康づくりに対する市民の関心は高まっており、生活習慣病をはじめとする病気やけがの予防には、日ごろからの食生活や運動、健康診断などが重要であり、ウォーキング、フィットネスクラブ通い、腰痛防止対策のストレッチ等、「自分の健康は自分で守る」という方が増えていると認識しています。

　運動プログラムの導入については、現在、健康たきかわ21アクションプランに基づき取り組んでおり、「運動チャレンジ」を重点事業として、運動を継続しているグループの紹介、初心者向けノルディックウォーキング教室の開催など、運動の推進を図るとともに、普及啓発に力を入れています。

こどもの体力向上について

質問　こどもの体力向上には、基本的な動作（投げる・跳ぶ・走る）についての保健体育授業での工夫が必要ではないか。

答弁　本市の全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果は、種目によっては全国平均を上回る種目もありますが、全体的にやや低い状況です。小学生の回答では、運動に対する興味、関心は高く、放課後や休日の地域の公共施設の活用度合いが全国平均を上回っています。中学生では、運動部活動等への所属率、運動が得意と答えた生徒が全国平均を上回っている状況です。

　この結果を踏まえて、学校では、教員が一人一人の能力を的確に把握しながら指導に結びつけることの大切さを認識し、少人数でのグループ指導や複数教員でのチームティーチングなどが有効な指導方法であると議論されています。

　新年度の体力向上策としては、先生方で組織する滝川市教育振興会の事業を見直し、走る力のプログラムを組んで、重点化して進める予定です。

日本共産党
清水　雅人
議員

一般財源の確保について

質問　本市の財政の判断基準はたくさんあるが、現在の財政状況については、ほとんどが国の責任ではないかと思う。考えを伺う。

答弁　国の問題かどうかは述べることはできませんが、基金繰り入れをしなくて済むような予算編成をしなければならないと考えています。

質問　基金がゼロになれば市の財政運営は困難になる。そこで借換え債の計画づくりを求める。総務省担当所管は、まず道が許可すること、耐用年数を超えない範囲での長期化などの条件をあげている。

答弁　過年度の起債の同意に対して、申請時の償還年限を超えた変更を申請することはできません。

質問　私は総務省に聞いたが、同じことを聞いて答えが違う。どこに問い合わせをしたのか。

答弁　北海道に確認してそのような回答を得ています。

市内の無届老人ホームの状況と市民に対する対応について

質問　有料老人ホーム（介護や食事を提供する施設）は届け出が必要だが、２０１３年10月末現在、道内では４３１件が無届けであることが明らかになった。市内及び中・北空知の無届けの状況を伺う。

答弁　市内は３か所ですが、中・北空知の状況は把握していません。

質問　その３施設は、３月策定の高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画に記載されていないか。

答弁　記載されています。

質問　市民からの問い合わせに対して、無届けのことや設備のことなど、具体的に説明しているか。

答弁　市では概要は説明しますが、その後は個人がその施設から話を聞いていると思います。

質問　老人福祉法違反ともなり得る施設にそのような対応でいいのか。申し込む市民の気持ちを考えた対応が必要ではないか。

答弁　施設の開設後に届け出の基準が改正されました。届け出していない施設についての対応は、北海道から通知が来ていません。